

第17回 全国大会へのご案内

平成3年度の全国大会は、11月6日から、徳島県文化の森総合公園で開催されます。

同公園には、図書館・博物館・近代美術館・21世紀館(AV・コンピュータ関係館)及び徳島県立文書館の5館が設置されています。5館は徳島市の中心から約5キロ離れた丘のふもと、伝承の森・県民の森・創造の森・知識の森に囲まれた自然環境の中に位置し、多くの県民の安らぎの文化施設となっています。

こうした環境の良さと文化施設の集合した便利さのために、文化の森は、当初予想された訪問者数をはるかに上回り、開設10か月で延べ来館者数100万人を越えました。

最も地味な文書館でも、3万人を越える盛況です。単純計算をすると1日100人の来館者を迎えています。文書館では本来の来館者、つまり調査や研究のための閲覧者でなく、他館へ来たついでに、文書館へ寄ったという「ついで来館者」がほとんどです。

文書館の目的を知らずに来る「ついで来館者」を、文書館の存在や必要性を知ってもらう千載一遇の機会だと積極的に捕らえ、年中無休の展示を行うことにしています。

徳島県では、四国で開催する初めての全国大会を成功させるために、全力を挙げて準備

をしているところであります。

今年の大会テーマは、数年来の「地域の中の文書館」ですが、研究報告の内容は「都道府県における文書館の課題と方向」「市町村における文書館の課題と方向」と設定されています。

文書館の設立運動がここ数年で飛躍的に進行し、現実的な課題が「都道府県」から「市町村」に移動しつつあることを示しています。

徳島県は藩政時代から浄瑠璃と藍の国として有名でした。また最近では阿波踊とスダチの県として売り出しています。

せっかく本県にお出になる参加者の皆さんに、少しでも本県の良さを知ってもらおうと、準備を進めております。

ゆったりとした自然の中で、研修していただき、休憩時には紅葉を始めた文化の森を散策していただきたいと思います。

文化の森は、藩政期の家老・長谷川氏の別邸のあった場所でもあり、秋の研修には最高の場所と考えております。

《交通のご案内》

○JR徳島駅から、徳島市営バス・徳島バス(25分)

(徳島県立文書館)